

## 「演劇作品制作クラス」授業実践報告

中山由佳

(早稲田大学)

2005年より早稲田大学日本語教育研究センターにおいて、メッセージ性のある演劇作品を学習者、日本人ボランティアが話し合いを重ねて制作することにより、日本語コミュニケーション力を伸ばすことを目的とした演劇作品制作授業の実践が行われている。本発表では、特に2006年秋学期の実践を中心に報告する。

まず、本授業の概要を説明する。本授業は、週1コマ(90分)×15週間で行った。本授業に参加したのは、中級後半以上の学習者40名、日本人ボランティア9名であった。活動内容は、①授業内インターアクション(ディスカッション・練習)②授業外インターアクション(SNSを通じての意見交換・外部への宣伝活動)③個人作業(SNS上で毎週の振り返り・最終振り返りレポート・自己評価)の三本立てとした。演劇作品を制作している：①テーマ(伝えたいこと)の設定②ストーリー作り③台本制作④練習⑤作品上演会。まず、テーマ設定では、「このクラスで発信したいことは何か」ということを念頭において、クラスでの話し合いを通して決定していった。次に、テーマに沿ってエピソードの設定(枠組み)を3つ考えた。エピソードの設定決定後は、3グループにわかれ、ストーリー作り、台本作りとすすめた。台本が仕上がるところで、スタッフおよび配役を決定し、上演会に向けての練習に入った。

次に、本授業の実践から見えたことについて述べる。本授業を通して、見受けられたのは①情報の共有の困難さ②学習者のインターネットアクセス・メディアリテラシーのばらつき③グループで合意を得ることの困難さ④期間中のモチベーションの変動⑤最終段階における上演会に向けての求心力であった。

さらに、学習者は本授業の活動をどのように捉えていたのかを検証する。上演会終了後の「振り返りレポート」において、学習者の多くが、活動を通して「コミュニケーションを学んだ」「人の話を聞くことの大切さがわかった」と振り返っている。学習者にとってこの活動を通しての学びは何であったのかを検証する。